

保育における 4 歳児の育ち (3)

— 子どもの視点から捉える幼稚園 2 年保育 4 歳児の 1 年間 —

横山真貴子 (奈良教育大学)

【目的】

保育の質の向上が求められる今、保育記録が注目されている (秋田他, 2013; 岸井, 2013; 河邊, 2013 など)。そこで共通して問われるのが「その子の視点」(大宮, 2011) に立った「子どもにとっての経験の意味」(秋田, 2013) である。子ども・子育て新制度の下、平成 27 年度より認定こども園が拡充されていく。生活経験の異なる子どもの個々の育ちの現状を捉えることは喫近の課題である。

本研究では「その子にとっての意味」(大宮, 2011) を捉えながら、育ちの過程を描き出すことを目的とし、本発表では、幼稚園 2 年保育 4 歳児の 1 年間の育ちの姿を「友だちとのかかわり」に焦点を当てて描き出していく。

【方法】

1. 研究協力者 N 県内の 2 年保育の公立 M 幼稚園 4 歳児 1 クラス 17 名 (男 9 名, 女 8 名。ただし 3 学期に女児 1 名が転出) と担任保育者。

2. 時期と手続き 2013 年 4 月～2014 年 3 月に週 1 回程度、計 35 回、9:30 前後から降園まで観察を行った。対象児を決め、一連の友だちとのかかわりの様子を追った。フィールドノートへの文字記録とともに、写真・ビデオ撮影を行い、保育終了後、担任保育者と意見交流した。

3. 分析 (1) 4 歳児 1 年間の育ち 観察結果から、4 歳児に共通して見られた発達の姿を月ごとにまとめた。(2) 1 人ひとりの子どもの育ち 個別に追った育ちの事例を子どもごとに示した。

【結果と考察】

1. 4 歳児 1 年間の育ち 1 年間の友だちとのかかわりの育ちの過程を Figure 1 にまとめた。1 学期に育まれた「クラスの友だち」意識を基盤に、2 学期は「遊び」を介したつながりから、特定の気の合う友だちができ、「人」によって子どもたちがつながった。さらに 3 学期になると、自分らしさを発揮しながら友だちとつながり、個と個の関係も深まる様子が見られた (事例 1 参照)。

● 2 月：個と個のつながりが深まる

【事例 1】 (2/17) 何度もコマ回しに挑戦していたあやのが「きのこまわし (コマを逆さまに回す技)、できた！」とうれしそうな声をあげた。その声を聞き、「あやのちゃん、きのこまわしてきた？ よかったな！」とさやかが駆け寄ってきた。2 人は手を取り合って「よかったな！」と喜び合った。

研究協力園では 2 月半ばに「生活発表会」があり、4 歳児クラスも保育者を中心に劇遊びに取り組んだ。題材は保育者が提案したが、何をどのように演じていくかは、

子どもたちと一緒に決めていった。このように子どもたちはクラスで共通の目的に向かって取り組む活動を体験し、3 月には保育者がいなくても子どもたちだけでクラス全体で 1 つになる遊びを始めた (事例 2)。

● 3 月：子どもたちだけでクラスで 1 つになる

【事例 2】 (3/10) クラス全体での活動の時に、保育者が職員室に用があり保育室から出る。すかさずのりこが「しゃべらんと、動かんとこ」と提案する。みんな椅子に座ったまま、口を閉じ、動かないようにしている。「あ、はじめくん、てつじくんしゃべった。逮捕」とのりこ。「えっ」と 2 人は非難の声を上げるが、他の子どもたちは声を出さず、動かないように頑張っている。

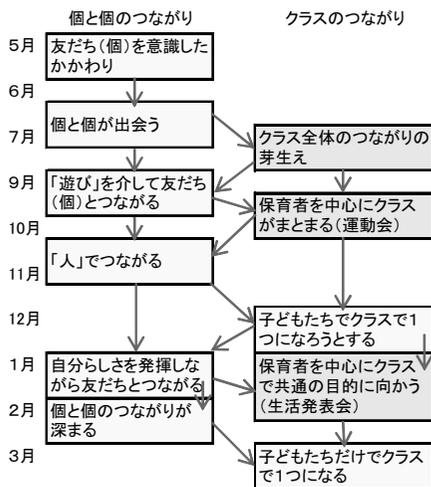


Figure 1 4 歳児の友だちとのかかわりの育ち

2. 1 人ひとりの子どもの育ち

● 1 月：自分らしさを発揮しながら友だちとつながる

【事例 3】 ま月は、真面目で慎重な性格で、自分の気持ちを抑えて、しなければならぬことをする子どもである。しかし、すると決めたことは粘り強く、やり遂げる芯の強さもある。2 学期 11 月には我を忘れて闘いごっこに興じるなど、自分の意外な一面に驚くが、3 学期には大きな声で自信をもって挨拶ができるようになる。なかよしの女児以外の男児とコマ回しに熱中する姿も見られ、自分の殻から少しずつ出て、クラスの友だちとのかかわりも広がった。

3. まとめ 4 歳児の 1 年間、子どもたちは「個と個のつながり」を深めながら「クラスのつながり」も築いていった。保育者を中心に「クラスみんなと一緒に楽しい」経験を積み重ね、3 学期の終わりには自分たちだけで、クラスで 1 つになることを楽しんでいた。